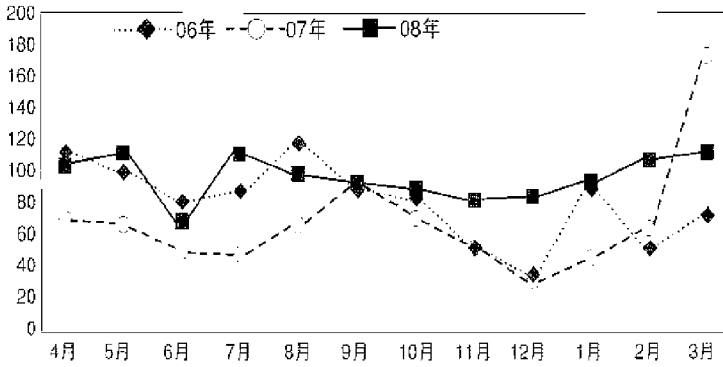


RSNの電話相談案件 設立3年で3000件超 08年度は1187件。ホール内ポスター経由の本人からの相談が増加

全日遊連の支援によって、06年4月に設立された第三者機関によるパチンコ依存問題の相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN・西村直之代表)では、この度、過去3年間で受けた3022件に上る電話相談の内容を報告書としてまとめた。電話相談の主な対象者は本人及び、パートナーや家族、

●3年間の月別相談件数



友人のほか、のめりこみ問題に携わっている援助職者など。報告書によると、08年度の相談件数は1187件で過去3年間で最多を記録。1カ月の平均相談件数も99件で、これまでと比較して月ごとの増減が少なく、毎月・00件前後の相談が安定して寄せられるようになったという。

なかでも、ホール内に貼られたポスターを経由して本人からの相談につながった件数が増加しており、08年度はそれまでの倍以上の568件に達した。報告書によると、積極的にポスターを掲示しているホールが多いエリアからは、比例して相談件数が多いという。ポスターは全日遊連が広報誌「遊報」に年4回、同封して送付している。

相談内容については「やめ(させ)る方法」に関するものが圧倒的に多く767件。以下「地域の相談先」「家族の接し方」「借金の返済方法」と続いた。相談経路では本人からの相談はやはりホール内ポスターが多く、全体の3分の1を上めた。家族、友人からの相談では新聞

やインターネット経由が多く、RSNでは、どの立場にも情報が届きやすいインターネットの活用を重点的に行っていきたいとしている。

また、RSNでは今後、専門家を交えての養成講座やキャンペーン報告会など、08年度に行った活動を踏まえながら、問題整理の援助と、必要な情報を提供するサービスを通して予防と回復支援システムの整備に務めていく方向性を示すなどした。

また、5月20日に開催された全日遊連の記者会見では、RSNのNPO法人化を視野に入れた検討を進めていく考えなども示された。全日遊連事務局の説明によると、5月14日に開催されたRSN運営委員会では、現在、全日遊連が社会貢献団体機構を通じて2000万円を拠出し、資金面での支援をしている状況を改善し、供給側も含めた他団体等にも支援要請をする意向が示されている。将来的には、多方面からの支援を受けて組織の財政基盤を強化するとともに、自立性を高めていく方向性が確認されたという。